

これからの日々

— 心配されているご家族の方へ —



食べたり飲んだりがおずかしくなったとき

病気が進んでくると、徐々に食事や水分を取る量が少なくなってきます。これは病気そのものに伴う症状で、「食事がとれないから、病気がすすむ」、「食べる気持がないから食べられない」わけではありません。

- 食べやすい形や固さにする工夫や、少量で栄養が摂れるもの（栄養補助食品）

点滴について
知っておいて
ください

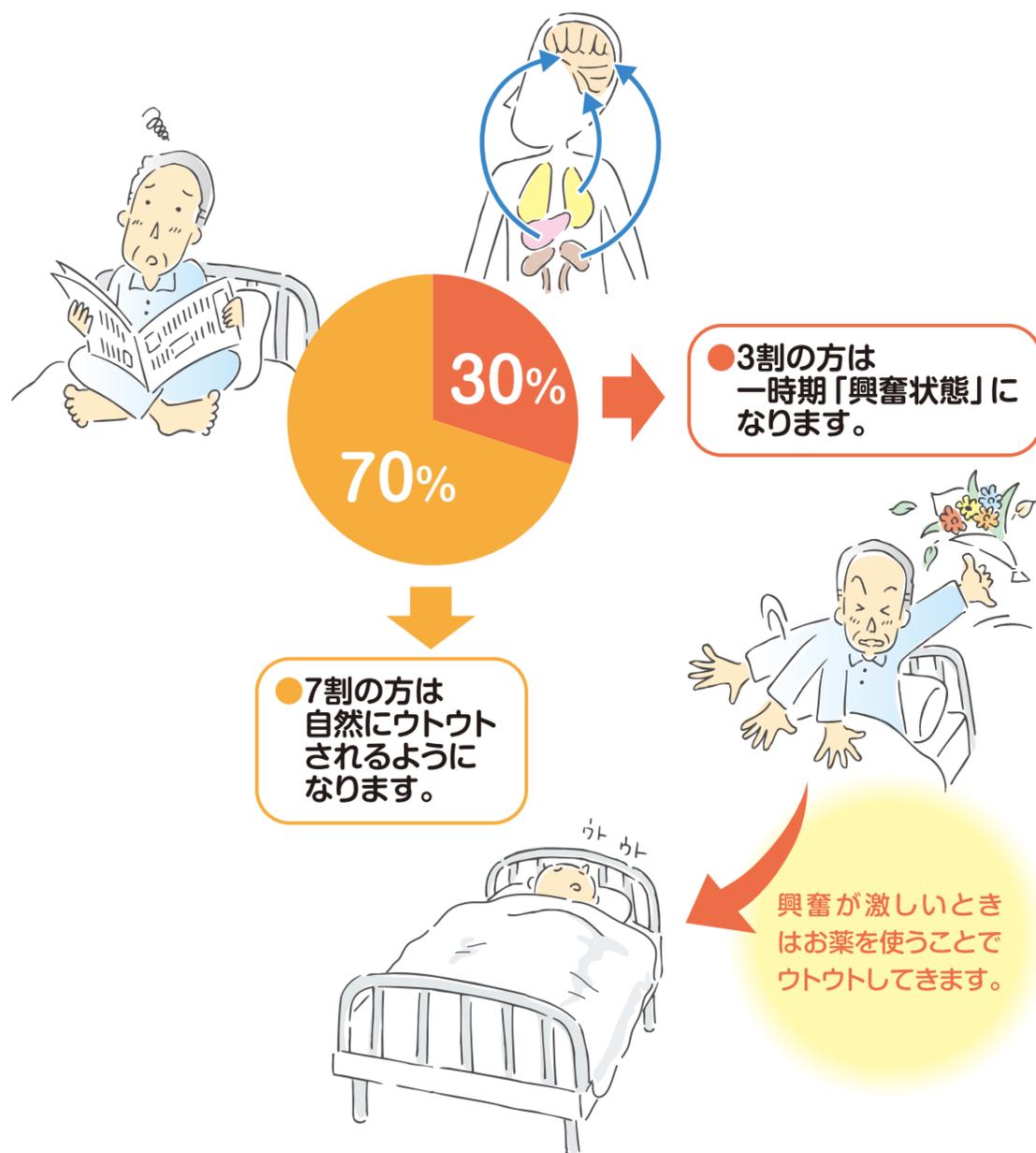
のどが「ゴロゴロ」するとき

からだが強弱とウトウトと眠ることが多くなります。そうすると唾液がうまく飲み込めなくなるため、のどに唾液がたまって「ゴロゴロ」する状態になります。深く眠っている場合は、私たちが思うほど患者さんは苦しさを感じていません。この症状は自然な経過のひとつで、約4割の方に起こります。

つじつまの合わないことを言ったりするとき

病気が進行してくると、患者さんがよくつじつまの合わないことを言ったりすることがあります。その原因は酸素が少なくなったり、肝臓や腎臓の働きが悪くなって、有害な物質が排泄されなくなり、その影響で脳がうまく働かなくなることにあります。

そのため、「気が変になった…呆けてしまった…」のではと、ご家族が心配されることがあります。薬や医療用麻薬が原因のこともあります。多くは一時的な症状です。興奮状態になった場合には、症状を軽減するためにお薬が役に立ちます。



●お薬で症状をやわらげるとき

- 「つらい症状をできるだけやわらげてほしい」、しかし「できれば強いお薬は使いたくない」と思うことは自然なことです。もちろん、薬を使わずにつらい症状をやわらげることができれば、それが一番良いのですが、必要があれば薬も使わざるを得ないことを理解してください。
- 苦しいのを和らげるために、必要な鎮痛薬や睡眠薬を使ったとしても、そのために寿命が縮まるということはありません。
- 使用する薬物の量は「苦痛のとれる最少の量」ですので、「寿命を縮める量の薬物を投与する安楽死」とは異なることを理解してください。



●何か話しているが、よくわからないとき

- どのようなことを話そうとしているのか想像してみてください。本当にあった昔のこと、気がかりなことや今しておきたいこと、あるいは口の渇きやトイレに行きたいと伝えようとしていることもあります。
- 時間や場所がわかりにくくなることが多くなり、時にはご家族のことがわからなくなることもあります。
- つじつまがあわない時は、患者さんの言うことを否定せずにつきあい、安心できるような会話をしてください。「間違いを訂正する」ことは患者さんを傷つけることがあります。



●興奮状態になり、どうしていいのかわからないとき

- すぐに看護師をお呼びください。看護師は口の渇きや排泄などの不快なことがないかを確認して対応します。
- お薬が必要か医師と相談します。お薬にはウトウトできるくらいの弱いものから、完全に眠れるものまで何段階かありますので、ご本人またはご家族のご意向と状態をみて決めます。





発行元：つくば在宅医療連携拠点事務局
〒305-0005 つくば市天久保1-1-1 筑波メディカルセンター病院西館内
平成24年度 厚生労働省在宅医療連携拠点事業